

笑ってごらん

第 517 号 H. 27. 6. 17 発行

～今日のことば～

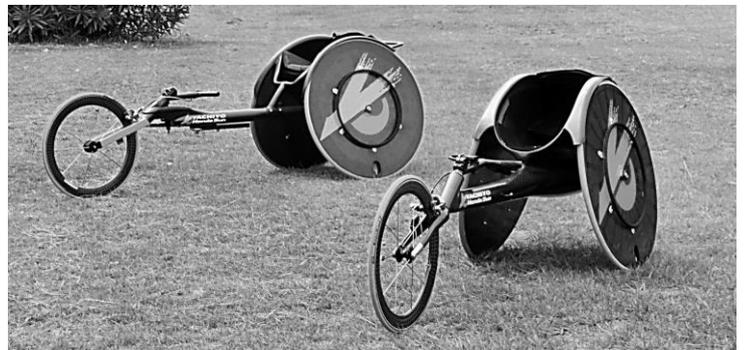
やってしまった後悔はだんだん小さくなるけど、
やらなかった後悔はだんだん大きくなる。

(作家：林 真理子)



◇◆11～12 日、九州地区福祉高等学校長会総会研究協議会並びに学科主任等研究協議会のため、十田学科長と大分県別府市へ赴いた。九州地区には福祉系高校が多いため、文部科学省初等中等教育局視学官 兼 初等中等教育局児童生徒課教科調査官 兼 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官：矢幅清司様（役職名が長すぎて覚えきれない…。役職はすごいが、偉ぶったところ無く、とっても気配りに満ちた方）も毎回来てくださり、現在の福祉社会情勢を含め、福祉教育に係る課題などについて講演される。今回も講演並びに意見交換会を通じて多くの示唆をいただいた。 ◆また、研究協議会の中で、ホンダ R&D 太陽株式会社の佐矢野利明様をはじめとする 3 名の方々による『大分国際車いすマラソンからのメッセージ』と題したパネルディスカッションがあった。佐矢野様は「二分脊椎」という先天性疾患により中学 3 年生の頃から下半身麻痺になり歩けなくなったという。

おそらく自分の運命を呪い、現実を受け入れるまでは大変な時期を過ごしたのではないかと思われるが、今は自信に満ちあふれた表情である。佐矢野様はリハビリの途中で車いすマラソンのことを知り、「これこそ自分が打ち込むべき世界」とトレーニングを始めた。以来全国で行われている各大会に出場を続け、地元で開催されている「大分国際車いすマラソン」の 2012 年ハーフ



の部で優勝、翌年ホノルルマラソンで 3 位にもなった。2014 年からは短距離に転向し、2014 年熊本陸上競技大会 100m で優勝、今年に入ってから 2015 大分パラ陸上 100m 2 位、200m 優勝という結果を収めている。数々の困難を乗り越えていく中、佐矢野様はサポートして下さる方々への『感謝』を常に忘れないという。「自分ひとりでは何もできない。今自分が競技に没頭できるような環境を整えて下さる方々のおかげ。皆のためにもリオデジャネイロパラリンピックに向けて頑張る」と力強い言葉。この会の 2 日前にスイスから帰国したばかりであるらしかった。文字通り世界を飛び回るアスリート。応援したい。 ◆加えて、やまおか在宅クリニック院長（大分大学医学部臨床教授）山岡憲夫氏による『最後までその人らしく生きるために』と題した講演もあった。山岡氏はいわゆる「看取り」に携わり続け、「幸せな最期のためにはどう関われば良いか」を課題に終末期患者と向き合ってきた。山岡氏曰く「幸せとは、お金があること以外にもっと大事なことがある。それは、心が平安で穏やかであること・家族や友人がいること・健康であることである」と。関連して、相田みつをさんの言葉『しあわせはいつもじぶんのところがきめる』を引用された。そして、終末期にある方に対峙する際必要な姿勢として『Not doing but being. (何も出来なくても傍にいることはできる)』を掲げられた。このほかにもいろいろと考えさせられる学びの多い「研修」になった。



感謝道

◇◆13 日(土)、部活動激励会を実施した。学校・学園の関連企業の方々、部員保護者の皆様、近隣住民の皆様にも雨の中ご参集いただき、本校部活動の状況を報告するとともに、全国・九州大会出場権を得ている選手諸君の壮行を行った。先日の万之瀬土手の草刈りの際にご案内していたご近所さんも雨の中来て下さり、「初めて来てみたけど、中はすごく広いんだね～」と驚かれていた。選手諸君は応援して下さい皆さんに感謝して尽力して欲しい。